

## 石炭ガスの製造過程における排水処理内容

### 1. 概要

新市場予定地でガス供給を行っていた東京ガス株式会社豊洲工場は、昭和31年から昭和51年まで石炭ガスを製造しており、その精製過程において、ベンゼン、シアン化合物が副産物として生成されていた。

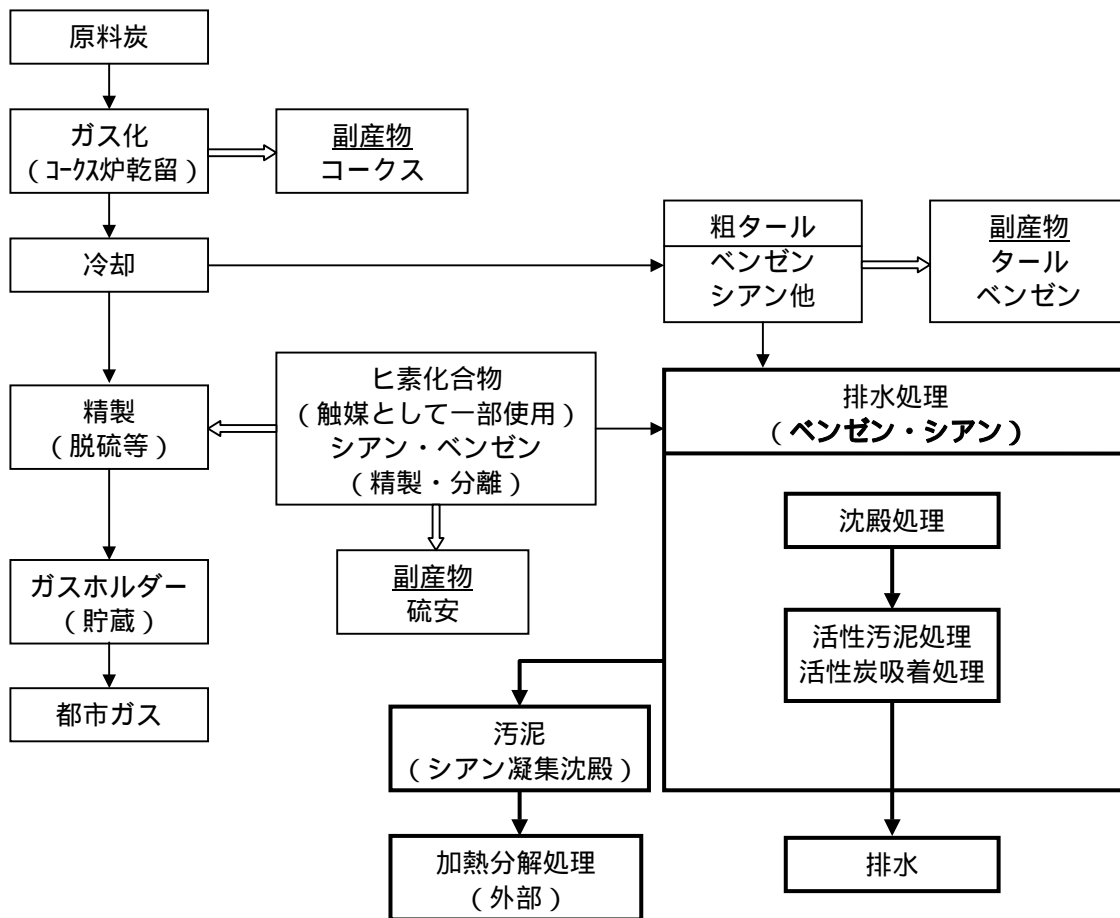
本資料では、ベンゼン、シアン化合物を含む排水の処理過程を示す。

### 2. 石炭ガス製造時の排水処理方法

原料炭（石炭）から製造されたガスの中にはベンゼンやシアン化合物が含まれており、これを冷却して回収し、気液分離した液体を沈澱処理で固液分離し、排水を集めて活性汚泥法や活性炭吸着により処理していた。

なお、汚泥にはシアン化合物などが凝集沈殿するため、この汚泥を回収し外部で加熱分解処理していた。

また、排水処理する施設は、工場操業当初は各施設ごとに設けられ、個々に処理して排水されていたが、昭和40年代後半からは、工場内の排水設備を一元化し、一括して排水処理が行える施設に切り替えたようである。



資料：「土地利用の履歴等調査届出書」（平成14年6月 東京ガス株式会社）を一部修正

図 1-1 石炭ガス製造時の排水処理過程